第４学年　社会科　学習指導案

屋久島町立八幡小学校　教諭　橋口　和真

１．**単元名**　大単元名「自然災害にそなえるまちづくり」
（教科書：『小学社会４』p. 82~p. 115／学習指導要領：内容（３）ア，イ）
小単元名　「水害にそなえるまちづくり」（選択）（全９時）

２．単元の目標

○　水害から地域の安全を守るための諸活動について，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身につける。（知識・技能）

○　水害から地域の安全を守る諸活動の特色や関連機関や人々の協力を捉えて，そうした取り組みの意味を考え，地域に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。（思考・判断・表現）

○　水害から地域の安全を守るための諸活動について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

⑴　教材観

本教材は，学習指導要領社会科編第４学年の内容⑶「自然災害から人々を守る活動」にあたる内容である。この内容では，「地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，様々な備えをしている」ことを取り扱うことを通して，児童が地域住民の一人として，自然災害に対する備えを考え実行することができる資質・能力や態度を養うことが求められる。

屋久島での過去の災害を調べてみると，様々な災害が起きていることが分かる。その中でも，とりわけ，水害が数多く起きていることは，屋久島の特徴である。それは，屋久島が暖かい黒潮の通りにあること，標高が高い山があり雨雲が発生しやすいこと，台風の通り道であること，花崗岩の地質で河川が多いことなど，屋久島の地理的特徴に由来する。すなわち，屋久島では，住み続けられる町づくりをする上で，水害に対して備えを充実させておくことが欠かせないのである。

屋久島に住む児童が，自分たちの郷土を愛し，これからも住み続けていくために，本教材では，「水害にそなえるまちづくり」を扱い，水害に対する備えを学習していく。そして，児童一人一人が「公助，共助，自助」の関係性の中で，「自分にできる水害への備えは何か」を考え実行していくことができる，資質・能力や態度を育むことをねらいとする。

⑵　児童館

本学級の児童は，小学１年生の頃に，屋久島で起きた記録的大雨による水害を目の当たりにして

いる児童がほとんどである。また日々の生活の中で，大雨や台風を日常的に経験している。しかし，大雨の日に外で遊んでいるなど，自然災害に対しての危機感や備えは十分とは言えない実態にある。過酷な自然環境の中で生活していることで，危機感が希薄になっていると考えられる。このことは，児童のみに限らず，家族や地域住民にも当てはまることである。そのような地域的な課題を抱える中で，児童が正しい自然災害の知識を学び，自分たちにできる備えを考えていくことは，非常に有意義なことである。

「水はどこから」の学習で，児童は，屋久島に河川が多く，水が多いことを学んでいる。また，その水が，超軟水で，世界に誇るおいしい水であることも学んでいる。地域素材を学習で扱うと，非常に興味を持って学習をする姿勢を持っている集団である。また，「他県の水も比べたい」といって，家族に頼んで他県の水を取り寄せ，学習に提供をしてくれる子もいた。学んだことを家族に話し，家族が協力をしてくれる傾向が高いのも本学級の特徴である。本教材でも，屋久島の水害という知己素材を扱うことで，家族とともに学習をする児童の姿が期待できる。

⑶　指導観

指導に当たっては，以下のことに留意する。

「見つめる」段階では，過去に屋久島で起きた自然災害全般を年表にすることで，屋久島で様々な災害が起きていることや水害が多く発生していることに気づかせたい。そして，２０１９年に起きた記録的大雨による水害を例に取り上げ，水害に対する備え学習することに焦点化させる。

「調べる」段階では，「屋久島の地理的特徴」，「屋久島町の公助」，「地域住民の共助」，「自分たちが備える自助」を扱う。公助や共助を学ぶ際には，実際に備えを進める，町役場防災課の人や地域住民にインタビューをする調査活動を採り入れる。「自助」を学ぶ際には，家庭からの協力をもらい，自助について家族で話し合う活動を取り入れる。これらの学習活動は，児童が地域住民の一人として，自分たちにできることを考え行動していく資質・能力や態度を養うことをねらいとする。また，「災害そのものを減らすこと」を考えさせるために，地球温暖化と水害の関係についても取り扱い，二酸化炭素の排出を減らすことが，住み続けられるまちづくりにつながることも学習させる。

「深める・まとめる」段階では，マイ防災バッグを作る経験をさせる。避難は，多様な条件の中で，自分一人で行うことと，地域住民と協力して行うことがある。よりよい避難のための，自助を多面的・多角的に考える視点を獲得させたい。そして，考えたマイ防災バッグを家族に提案させる家庭学習を取り入れる。４年生段階の児童にとって，「家族」が一番身近な地域住民である。児童が「水害にそなえるまちづくり」を学ぶことを通して，それを家族に伝え，家族の水害に対する意識を変えていく資質・能力が高まっていくことを期待したい。

⑷　ESD との関連

・　本学習で働かせる ESD の視点

相互性…自然災害に対する備えは，公助，共助，自助が密接に関係しあっていて，どれかが欠ければ，住み続けられるまちづくりは実現しないこと。

責任性…自然災害が多い日本では，一人一人の防災・減災の意識や行動が大切であること。

公平性…将来の世代が自然災害の脅威にさらされないためには，今の私たちの意識や行動を変え，住み続けられる社会を作っていく必要があること。

・　本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

…自然災害に対して適切な備えをしているのか，自分の生活を見つめ直す。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

…自然災害へのそなえに関して，公助，共助，自助の視点で考えたり，幅広い世代の生活を守るために，子供からお年寄りまでの視点に立って，必要な備えを考えたりする。

他者と協力する態度

…他者や地域のためになる自然災害への備えを考え，実行しようとする。

進んで参加する態度

…進んで共助・自助に参加しようとしたり，将来の世代のために，自分たちにできることを考え実行しようしたりする。

・　本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

…将来，自然災害に強い，住み続けられるまちを，自分たちが作っていく。

世代内の公平

…自然災害への備えは，幅広い世代の生活を守るためにある。また，避難所での生活は，自分たちだけではなく，利用するすべての人たちのことも考えなければいけない。

・　達成が期待されるSDGｓ

１１　住み続けられるまちづくり

１３　気候変動に具体的な対策を

１５　パートナーシップで目標を達成

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①自分たちの住んでいる地域には，その地域の地理的特徴によって様々な自然災害が起きていることを理解している。 ②地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な備えをしていることを理解している。	①過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などに着目して，災害から人々を守る活動を捉え，その働きを考え，表現している。 ②地域で起こりえる災害を想定し，日頃から必要な備えをするなど，自分達にできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。 ③災害と地球温暖化の関係について考え，災害そのものをへらす取り組みを考え，表現している。	①自然災害から人々を守る活動について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追求し，解決しようとしている。 ②学習したことをもとに，日頃から必要な備えをしたり，自分の生活を改善したりするなど，自分達にできることなどを考えようとしている。

５．単元の指導計画（全９時間）

課程	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
見つめる（1時間）	1　屋久島町の災害年表を見て気づいたことを話し合い，学習問題をたてる。（１時間） ・　屋久島では特に水に関する災害が多い。	・　水害が多く発生していることに気づかせるために，災害の種類によって分類させる。 ・　予期せぬ災害が起きていることに気づかせるために，大雪や火山による災害などにも注目させる。 ・　水害が起こりやすいことから，水害への備えの大切さを考えさせる。	ア①（知技） ウ①（主体的）
調べる（6時間）	2　屋久島の地理的条件や気候の特色について調べ，水害との関係について話し合う。（１時間） ・　海に囲まれ雨が多い ・　温暖な気候 ・　台風の通り道 ・　花崗岩の地質	・　屋久島町の統計資料から，気候の特色をつかませる。 ・　屋久島町には川が多いことを捉えさせるために，既習の「水はどこから」の学習を思い出させる。	ア①（知技）
	3　水害に備える町や県，その他関係機関の働きについて調べる。（３時間） ・地域防災計画 ・関係機関との連携（国，県，消防，警察，自衛隊など） ・公助	・　役場の防災係の人にインタビューをして調べさせる。 ・　過去に起きた災害の資料から，どのような関係機関があるのかを考えさせる。	ア②（知技） イ①（思判表） ウ①（主体的）
	4　水害に対して，私たちはどのような備えが必要なのかを話し合う。（２時間） ・公助，共助，自助の関係 ・環境問題の解決によって災害を減らす	・　家庭学習で，自分の家ではどのような備えをしているのかを調べさせる。また，足りない備えについても考えさせておく。 ・　地球温暖化の影響で，災害が増えてきていることに注目させる。	ア②（知技） イ②（思判表） イ③（思判表）
深める・まとめる（2時間）	5　自分や家族の状況，避難先の環境，地域で起こりえる災害などを想定し，マイ防災バッグを作る体験をする。（１時間） ・防災バッグ ・避難所での共同生活 ・被災者の声	・　防災バッグの中身を多面的･多角的に考えることができるように，様々な人の立場に立って考えたり，様々な状況を想定したりさせる。 ・　家庭学習で，自分の家ではどのようなマイバッグを作るべきか，学習の後に家族と話し合わせる。	イ②（思判表） ウ②（主体的）
	6　学習を振り返り，自然災害に対して，どのような備えをしていきたいのかを発表する。（１時間）	・　自分の家でどのような備えをしていきたいのかを考えさせ，実際に家族に提案をさせる。	イ②（思判表） ウ②（主体的）